

# 全佛通信

十二月号  
発行所  
財団法人  
全日本仏教会  
東京都中央区築地  
三ノ木(本願寺内)  
電話 03-0223  
0223  
振替東京 三三三  
発行人 栗本俊道  
編集者 別所弘因  
印刷所 ルンビニ社

## ことし一年を終る 重要諸問題を反省して

鳥兎忽々、昭和三十六年を送る。国際情勢の緊張、世界東西の危機、核実験の競争から超大型五〇MTの実験という狂的行為は、人類生存の上に死の灰の脅威を与えながら、今年暮れにいく。

世界平和、素土建設、人類福祉の向上をねがって、仏教運動をつづける日本仏教徒の悲願は、正に蠅蠅の斧に等しいという批判を甘受することを誰か否み得ようか。仏教界本年の過去を顧みて、急激に変転する世界内外の情勢に対応するわれらの実践行動は、あまりにも午歩遅々たるの感みがあり、丑歳を送るいま、正に寅年への一大反省転機を促すものである。八万の寺院、廿万の僧侶、数千万の信徒を持つ日本仏教界の一年をふりかえり、その中心であるわが全日本仏教会は、変貌する国際的視野に立つとき、室内置き物のコップの中の嵐にさえ焦り気味であつてはならないときである。

と、四国高松城に於て香川県仏教会等の配慮によつて全仏講習会を催し、地方寺院の適切な問題を中心に、全仏の運動方針を地方に浸透したことは今年の新しい展開であつた。

寺有墓地の宗教性を確保し、寺檀関係の信仰的紐帯による教化の徹底を期する点からも、絶対に解決しなければならぬ所謂墓地問題は、厚生行政の物質的観念を除くべき、正しい仏教の宣流をはかる重要な大事であり、物量作戦に對抗してあらゆる方策を樹て、全国寺院総動員によつて、訴訟、請願の運動に全力を期してゐる。そしてこの一年を通じて斯うした対外運動に痛感することは依然として全仏の組織力が未だ充分でないことであり、対岸の火災する仲間との少なくないときである。

で、特に青少年層への一大工夫を要することを卒直に感ぜしめた。全仏役員改選の年にあたり各種専門委員による特別委員会も、それぞれ時機即応の型態で改編されて新発足をした。青少年対策の新運動も強く打出されたことを期待するものである。

原水協は偏向的色彩を非難されてきたが今年第二原水協とも云ふべき核禁平和国民会議が生まれ、仏教日本には仏教精神に基づく異色ある運動が当然展開されるべきであり、核兵器禁止、核実験停止の運動はもとより仏教徒当然の任務である。日本仏教徒の全国的強大な組織力を持つて恒久的なス種運動の母体として仏教平和財団の設立を企図し、一大国民運動を展開することは今や仏教徒の盛り上る要望となつてゐる。急速な実現が策せられて明日を迎えるものである。人類の滅亡を防止するため、人間生存の不安脅威を除去するに携えて、全世界の宗教人と共に手を極的指導の立場をとらねばならぬ。

大映永田社長の野心的意図による七〇ミリ映画「釈迦」はその内容において仏教徒の悲しみと憤りを与へた。南方仏教圏諸国から上院禁止の措置が報せられてくるが、南方諸国との国際親善が仏教を尊重するとき、日本仏教徒としてつまずくことに遺憾な問題であり、この映画の公開は黙視することは出来ない。永田社長の仏教徒として、日蓮信者の熱心な人として、良識ある行動を期待するものである。

に協力できる態勢を整え、万人の幸福に寄与すること。破壊されていく日本の教育、言論、芸術、マスコミ、風俗等の正常化と、東南アジアに対する外交政策については仏教事情を尊重すること。現下内外の危機的情勢を正視し、世界不安の基因を明察して、仏陀の教えの下にあるわれらは仏教と政治の健全なる発展を期待するものである。

全仏の中に、権威ある強力な調査機関を常設して、破壊されていく日本の諸問題を正常化する運動を展開することは最も必要な仕事であろう。特に最も影響力あるマスコミ対策は寸時も忽がせに出来ない。滔々として時流に阿ねるマスコミの世界その時流に健全なる日本の育成を破壊する傾向が一部にあることは、正にその基因を明察しなければならぬ。仏教こそ明るく世界をつくるものであり、福祉日本の建設育成を目標とするものである。全日本仏教会の使命もそこにあるにはかならない。純良な生活をみだす好色不倫俗悪な映画や文芸作品、特にそれが仏教の内部を素材とする如きものが時流に横行することは許さるべきでない。常設調査機関の勧告活動が必要である。

仏婦、仏青をはじめ仏教各種団体の年間活動も特筆さるべきものである。おしなべてこれらの各運動、涅槃会、花まつり、成道会など仏教三大行事は各種団体が盛大に開催されてゐる。理智に輝く文化運動が陽春の花まつりに、慈悲に救われる助け合い運動が歳末の成道会を期して行われることも生き返る仏教の示現である。

提案何れも既報の通りであるが、各団体を代表して壮途に上つた一行の帰国談が鶴首されるわけである。

斯うして昭和卅六年を送る。多くの重要な内容を孕んだ諸問題を抱きながら新年を迎えようとしてゐる。全日本仏教徒会議第十回は大阪に於て開催に内定した。これが準備と内容には万全を期して最大の実功を挙げたいものである。

仏教徒会議なのか、仏教大会なのか、その性格を明確化することと更に決議事項の実践について、この会議出席者の議決権が果して代表的資格を有するものの権限であるかどうかは、十分考究検討しなければならぬ。従来会議内容やその情況を見たとき、斯様な感じを与へた事実が否み得ないであろう。

宗派の連合協力体制とはとにかく打ち立てられたが、地方仏教会や各種仏教団体の協同組織体には未だしの憾ある現情から、全日本仏教会の財団法人としての体質改善と、未組織体制を全一仏教体制に組織化することが、痛感せしめられたこの一年であり、これからの重要課題と言えよう。しかし何ともしも先決要件は財政の確立という点にしろはる。財団組織としての寄附行為の定款もそこが財源の獲得方法がむづかしい重要課題でもある。宗派以外の各種団体、地方仏教会の加盟、組織力強化という点の隘路もそこにあると云えよう。

以上、多くの重要課題を持つて今年を終ろうとする。全日本仏教会は、これら多くの重要な諸問題を解決前進することに、新しい一年を迎える決意を披瀝して、ことし一年の反省を行なう次第であります。全仏教徒の総力結集をおねがいする。(総務局長 栗本俊道)



墓地問題対策特別会計歳入歳出決算書 (昭和35.8~36.7)

歳入	金 1,000,000 円也	歳入 予 算 高
金 1,069,305 円也	歳入 決 算 高	
歳出	金 1,075,110 円也	歳出 決 算 高
金 5,805 円也	翌年度繰越不足高	

墓地問題対策特別会計歳入歳出決算  
歳 入

科 目	予 算 額	決 算 額
1.各宗派負担金	1,000,000 <sup>円</sup>	1,069,305 <sup>円</sup>
合 計	1,000,000	1,069,305

歳 出

款	項	目	予 算 額	決 算 額
1. 会 議 費			59,000 <sup>円</sup>	47,642 <sup>円</sup>
	1. 特別委員会費		34,000	22,302
		1. 全体委員会費	24,000	18,974
		2. 常任委員会費	10,000	3,328
	2. 全国会議費		25,000	25,340
		1. 全国会議費	25,000	25,340
2. 事 務 費			112,000	196,402
	1. 連絡, 交通費		80,000	98,100
		1. 連絡, 交通費	80,000	98,100
	2. 通信, 印刷費		32,000	98,302
		2. 通信, 印刷費	32,000	98,302
3. 請願運動費			445,000	456,206
	1. 請願運動費		445,000	456,206
		1. 請願書作成費	240,000	195,260
		2. 請願書配布発送費	30,000	23,579
		3. 請願書集約製本費	25,000	20,367
		4. 渉 外 費	150,000	217,000
4. 行政訴訟関係費			300,000	300,000
	1. 行政訴訟関係費		300,000	300,000
		1. 行政訴訟関係費	300,000	300,000
5. 雑 費			24,000	17,860
	1. 雑 費		24,000	17,860
		1. 雑 費	24,000	17,860
6. 予 備 費			60,000	57,000
	1. 予 備 費		60,000	57,000
		1. 予 備 費	60,000	57,000
合 計			1,000,000	1,075,110

第六回全日本仏教講習会講演(要旨)

新興宗教の実態

文部省宗務課 専門員 井上 恵行

新興宗教と一口にいふけれど

も、新興宗教とは一体何であるか、まずその意義を定めなければなりません。新興宗教の定義については、人によつてそれぞれ相違があるでありましようが、私は新興宗教とは「終戦後新たに興隆した宗教ないし宗教団体」というふうに解釈しています。したがつて、新興宗教必ずしも教義が新しいというわけではありません。問題の創価学会にしても、その教義は、日蓮正宗という古い宗派の教義がそのままの教義といつてもよいのであります。その本尊も、日蓮上人が書かれたという「南無妙法蓮華経」の桶の一枚板であります。これがいわゆる「幸福製造機」で、これをえ拝んでおれば、どんな病氣も立ち所に全快するという靈驗あらたかなものであります。しかし、その教線拡張ののやり方がまことにすさまじく、終戦後急に盛んになつたので新興宗教の一つ、しかもそのナンバー・ワンといわれるのだと思ひます。

日蓮正宗は、文部省所管の包括宗教法人であります。創価学会は東京都新宿区信濃町にある本部が都知事の認証を受けた単立宗教法人であつて、包括団体たる学会そのものは、まだ宗教法人になつ

ていません。

一般に、新興宗教は迷信邪教、インチキ宗教などといわれてしますが、新興宗教必ずしもそうではない。一体、邪教とは何をさすか。思うに、邪教といふには、およそ二つの条件があります。第一は反科学性といふことであり、第二は超科学性といふことを混同してはなりません。科学で説明ができないことも宗教では説明ができる、そういう超科学性といふものは、インチキといふことはできません。むしろ、そこに宗教の宗教たる所以があるのではないか。

西洋でも「科学は神の存在を証明する」と云れています。アメリカの学者モリソン氏は、その著「人は一人立たず」の中で、科学と宗教信仰と学問の関係について次のようにいつています。「世の常の人々は、学問が進歩すればするほど、神や仏の姿が小さくなり、科学が発展すればするほど、宗教や信仰はその影が薄くなる、と思つてゐるかもしれな

いが、それは大きな間違いである。そのような科学はまだほんとうに発展した科学ではない。科学がほんとうに進歩すれば、神や

仏、信仰や宗教の姿は明確にクロームアップされて来るのだ。その理由は、学問がだんだん進めば、今までわれわれが不思議でないと思つてゐたことが不思議になる。学問が進んでこの世の中に不思議が全くなくなればよいが、そんなことは全く考えられない。結局、学問が進歩するといふことは、われわれの未だ知らなかつたことがますますふえてくる。そこで、その不可思議なことを追求めたとき、そこには、科学では説明がつかないもの、逆にいえば科学以外の何ものかによらなければ説明がつかないものがある。われわれ人間以上の力、目に見えない力、鼻でかくことのできない力、耳できくこともできない力があるからこそ、以上の大きな力があるからこそ、いろいろの不思議が説明できるのである」と。そして彼は、その科学で説明できない不思議を科学的に説明して、いますが、その説明によると「ここにお金が十枚ある。この十枚のお金に1から10まで番号をつけ、よく混ぜてポケットに入れる。そしてポケットから一枚ずつ取り出す。この際、背番号1のお金が最初に出るために、この動作を何回繰り返すか、というのであります。つまり確率の問題であります。モリソン氏の説明によると、十回繰り返すと、1番の金が最初に出る。つまり、十回繰り返さないで最初に一番の金が出ない、すなわち、十分の一の確率といふことになり

ます。次に1番2番のお金が続いて出るには何回繰り返すかといふと百回である。百分の一の確率となります。このようにして、1番から10番までのお金が順序正しく続いて出るためには、驚くほしく、百億回繰り返さなければなりません。そこで、一回数えるのに一分間かかるとして、百億回では二万年かかる勘定になります。人生五十年かかっても、七度この世に生まれかわつても、とても数え切れない。

さて、ひるがえつてわれわれ自身の身体、さらにおわれわれを囲む宇宙の現象をよく気をつけてみると、百億回一度どころのさわぎではない。それこそ無限大に不思議なものである、とおいついてい

ます。無上甚深微妙の法、百千万劫にも、遭い遇い難しであります。永遠の過去から永遠の未来に連なるたての時の流れを今かりにXとし、広漠たる無限無辺の横の空間をYとすれば、XとYの二つの線が交叉するその一点に今私は立つて私は拙い話をし、皆さんは皆喜んで、それぞれその一点で、私の拙い話をきいて下さつてゐる。わたしたちが、今ここに生きてゐるといふことは、それこそ百億回に一回ぐらゐの不思議さではありませ

ん。この摩訶不思議なことは、科学では割り切れる性質のものではない。と、こゝろモリソン氏はいつてゐるのであります。地球は一時間に一千哩回る。そのことは科学が説明してくれる。その点科学はまことにありがたいものであります。もし、地球が一時間にその十分の一の百哩しか回らないことになつたら、地球上の生き生きするものは、一切死んでしまふといわれる。一時間に千哩回

つてゐるからこそ、われわれも生きていられるのであります。このことも科学の力でわかつてゐるのであります。しかし、何時、誰が、何のために、このようになつたのか、それは科学ではわからない。どうしても、ほかの大きな力のあることを前提としなければならぬ。そこで「人は一人立たず」といふテーマが生まれたものであります。

アメリカのカリフォルニア州の海には、トイゴイワンという可愛い魚がいますが、産卵期になると満潮時をねらい波と共に砂浜に飛び上がつて砂中に産卵し、その引き返す波頭に乗つてすぐ海に入り、次の満潮時にすでに赤ちやんになつた魚とアベックで海に帰る、というタイムリーな早業を演じるそうです。魚がどうして満潮の時期を知つてゐるのであるのか。これもまた不思議なことであり、科学では説明がつかないのであります。

また病氣になつても、怪我をしても、医者にかかり、薬をのむと却つて悪くなるという無医業主義を説く宗教もあります。さらに立正佼成会や天理教では現に立派な病院が建つてゐる。金光教の教祖は、一祈れ薬れならおかげはない」といふようなことをいつておられます。科学と宗教の二つの線をどこでクロスさせるか、といふ興味ある問題です。第二には反社会性といふことであります。反社会性といふのは宣伝の方法が社会公共の福祉に反する、社会の安寧秩序を害するといふことであります。新興宗教の中でインチキ宗教とか、邪教とかいわれるものが多い

か、邪教とかいわれるものが多い

くは、この反社会性が含まれているかと思ひます。しかし、反社会的行動はよくありませんが、その教線を拡張しようとする熱心さは、われわれ既成宗教者は大いに他山の石とすべきではないでしょうか。とかく既成宗教というものは、古いのれんの老舗の店の奥に、たばこをくわえて火鉢をかかえ、いらつしやいともいわずに客の来るのをただまわっている、という状態ではないでしょうか。これに反し、新興宗教は、自ら荷物を背負つて「毒酒」はいらんかね」と諸国を歩く行商である。創価学会に至つては、行商を通り越して押売りである、ともいえます。一人でも多く、一日でも早く、信者を獲得すること、これが新興宗教共通の特徴であるともいえます。折伏を行なうものは迫害を招くけれども、その苦しみを通じてこそ宿罪が消えて行くのであるから、他の一切の宗教は邪教であるから、いくら折伏しても罰は当たらないのだとか、こういつた筆法であります。では、こんどは新興宗教発展の理由について考えてみましょう。

第一に、新興宗教では教義は二の次で、教祖の人間性というものが一番問題で、信者はこの教祖の人からについてゆく。もつとも、既成宗教でも、立宗開宗の当時は皆そうであつた。また、新興宗教の教祖には、他人には出来ない特技をもつていらつしやる方が案外多い。それに信者が引きつけられる。たとえば、人相・骨相・手相などを観る。そして、その人間性ということにも通じる。またそれだ

けに、逆に、初代教祖のそうした特性が二代三代にまで保証できるかどうか、一つのなやみになりま。

第二に組織の巧妙なことであります。既成宗教に比べて新興宗教は信者を組織的に統一している点は大いに学ばねばならないところであるかと存じます。

第三に、教祖や教師と信者との一体になつてゐる。教義や、所依の經典などというものは極めて簡単であるが、教師と信者との一つが先生と同じ蓮華の座に立つて、ささやかではあるが、自分の体験談を一同に語る機会が与えられてゐる。これは実にすばらしいことである。こうした場を与えられるということは、いわば欲求不満の補償作用ともなり、信者にとつては、法悦の心境にも二境にも住する結果ともなりましよう。

教団に行事があるときなどは、特に女の信者は、着飾つて出かけて行く。故意か偶然か、こうした角々で、女心の微妙さに、いみじくもアダプトしてゐる点は、注目しなす。

第四に、宗団意識の強さ、愛宗護法の精神の強さ、縦には教祖や会長に対する尊敬の念の強さ、横には、同信仲間観念の強さ、これまた大いに見習うべきものがあると思ひます。以上が、だいたい新興宗教発展の理由かと思ひます。そして、そこに教線拡張の、炎のごとき熱意はないかと存じます。では、新興宗教の短所ともいふべきものは、どこにあるでしょうか。

か。まず第一には、前に申しましたように、特異な性格の持主たる教祖と同じような魅力ある二代三代がこれに続くかどうか、という不安であります。

第二に、新興宗教には本部があるが、本山がない。長い歴史と伝統に裏付けられた本山がない。聖地淨域にふさわしい本山がない。それだけに、既成宗教の本山を、羨望の目をもつて見ている、という次第でありましよう。一方、既成宗教はそうした意味での立派な本山をすでに持つてゐるというところを再確認する必要があるのでないか。彼らにないものを、彼らがほしいと思つてゐるものをわれわれはもつてゐるのであります。

第三に、教義・儀式・制度などがまだ整つていないということですが、これは、宗教成立の過程からいつて、これから整つてくるものと思われましよう。

このように、新興宗教の種々相を通過してまいりますと、教義・儀式・制度など各分野において、既成宗教とくに既成仏教の、長い歴史の流れにそつて洗練に洗練された既成品々を、アレシシ、包み紙を敷いている点が指摘されます。したがつて、われわれが気がついたときには、すでに既成宗教がもつてゐるよいものが、そつくり他のショー・ウィンドに飾られてゐるようなことになるのではないでしようか。また新興宗教の多くは、その教義内容について、一つのものにこだわらない。神道的なものあり、仏教色あり、さらにキリスト調ありで、いろいろな教えがミキサー

に入れられて出来あがつてゐるようなどころが見受けられます。新興宗教が現世利益を共通のモットーとしてゐる点も、見逃すことができません。どんな新興宗教へお参りしても、貧乏と病氣と争への三悪を追放して、そのかわりに富と健康と平和を、この地上にうちたてることを教義の主要としてゐるようでありましよう。

最後に一言——新興宗教は信者に感激を与える。が、既成宗教は理屈は与えても、感激を与えようとはしない。それから、新興宗教は、あまりにも泥臭い、あまりにもエゲツない。あまりにも心臓が、あまりにも泥臭くなさすぎる、あまりにもエゲツなくなさすぎる、あまりにも心臓が弱すぎる。われわれは、もうちよつと、泥臭く、エゲツなく、心臓強く行けないものでしようか。(了)

哉、熊野竜夫、広田より子、坂本春枝、新美孝道、内山憲尚、山田一真、小島賢道、野村宗春、白川良純、来馬理事長、栗本、狩野各局長、別所、柳、吉井各部長、相馬主事

### 神奈川県仏教会 新興宗教対策

○従来の受け身的、防禦的態度を改め、積極、攻撃的態度に転ずる。  
○事の大小を問わず、所謂信徒の説得入信の強要、既成教団への攻撃、誹謗、妨害等の事例を細大洩らさず蒐集し、整理検討して内容実態を明確にし、その本質を徹底的に追求する。

- ① 教理上の矛盾不合理的の追求
- ② 他宗派攻撃の暴論内容について
- ③ 寺院への襲撃、途上車中の誹謗
- ④ 信徒入信強要の日に余る方法
- ⑤ 入信後の強制行為
  - (1) 信者獲得の義務強要 (2) 病人に医療を拒否せしめた事例 (3) 家庭不和の原因の強要 (4) 不良職種の者を正当化した事例 (5) 自治体公共団体の募金拒否 (6) 自治体の職務を怠り、既成教団への妨害
  - (7) 神棚位牌の破壊と一般祭祀葬儀への不参加 (8) 選挙得票死達の噂並に政治関与への例 (9) その他
- ⑥ 入信した者の爾後の調査
  - (1) 病人の病状悪化の事例 (2) 営業不振、貧困者続出の事例 (3) 家庭不和の事例 (4) 不慮の災害を受けた事例 (5) 葬儀に於ける学会葬等の被害 (6) 異邦人的? 近隣交際の事例 (7) 信仰を強調して国法に協力せぬこと (8) その他
- ⑦ 離脱希望者に対する脅迫行為
- ⑧ その他

※(七頁より続く)  
副委員長 船口暉子(婦人会問題)  
同 摩尼清之(マスコミ対策)  
同 森 芳俊(社会福祉問題)  
続いて、大映映画「釈迦」の問題について経過報告が行われこれに対して新たな意見と対策が開陳されたが、結論としてこれは、関西側の意見をも具体的に聞かなければならないとして、来る三十日関西側をも含めた「釈迦問題特別委員会」を東京で開くことに決定譲承した。  
なお、第十回(明年度)全日本仏教徒会議に対する打合せは重大であるので別に日を改めて開くことになった。当日の出席者左記。  
阿部竜伝、五島宗宣、峯岸広

# 第六回世界仏教徒会議

## 日本仏教代表団壮行式

十一月七日 築地本願寺で開かる

第六回世界仏教徒会議カンボジア大会及び日印仏教親善のため訪印する日本仏教代表団の壮行式は、さる十一月七日午前十時から東京築地本願寺講堂において厳粛に行われた。

柳国際部長の司会で開式が宣せられ、まず白山事務総長の開会の辞にはじまり、清水谷恭順副会長の導唱により三版依文の唱和、つづいて宮本正尊副会長が全日本仏教会を代表して、日本仏教を代表して出席される諸氏は健康に留意されたいと壮行の辞を述べられた。

つづいてカンボジア仏教徒へおくる聖観音像の開眼法要を清水谷副会長の導師で代表団全員が勤修した。

ついで柳国際部長より代表団全員を紹介、宮本副会長より代表団旗を第一班に中山理々氏に、また第二班には秋山祐雅氏に夫々授与された。

代表団全員が会食をともししながら最後の渡航打合せを行った。

**第一陣出発**  
翌八日午前九時二十分発の日航機で、安藤、山本、中山、石川、平等、山口、小野の七名が多数の見送りをうけて元気で出発した。



第一陣出発の一行

**タイで法王の会見**  
途中一行はタイのパンコックで二泊、法王、妃殿下に接見しさらに大江大使の招待会をうけて、予定通り十日ブノンベンに到着した。

**第二陣出発**  
カンボジア、及びインドを訪問する第二班秋山祐雅氏をはじめ十六名の代表は十七日午前九時二十分の日航機で空港を圧する大歓送のうちに無事空路出発現地向つた。



第二陣出発の一行

### 日本仏教代表団

氏名	年齢	推薦宗派・団体
秋山 祐雅	41	真言宗・智山派
安藤 寿雄	42	真宗大谷派
麻布 照海	43	東京仏教団
平等 通照	44	神奈川県仏教会
長谷川俊明	45	本願寺派
橋本 芳契	46	梵人會
橋本 照益	47	千葉県仏教会
稲岡 覚順	48	埼玉県仏教会
石川 存静	49	全日本仏教会
井坂 信興	50	真言宗・豊山派
鎌田 良昭	51	全日本仏教会
加藤 龍雲	52	曹洞宗
松浦 敬重	53	大阪府仏教会
中村 英文	54	曹洞宗
中山 理々	55	京都府仏教会
丹羽 廉芳	56	日本仏教鑽仰會
小野 一成	57	日本仏教鑽仰會
阪口 祐瑞	58	高野山真言宗
高橋 隆天	59	真言宗・智山派
山口 貴美子	60	真言宗・豊山派
山本 宗源	61	曹洞宗
山本 宗源	62	全日本仏教
山本 杉	63	日連盟

(アルファベット順)

本日ここに日本国民を代表し、カンボジア王国の首都プノンペン市において開催される第六回世界仏教徒会議に祝辞を送る機会を得ましたことは、私の欣快とするところであります。

古来、仏教が人類の精神文明に及ぼす宗教的乃至倫理的意義に関しては、今更ここに多言を要しないところでありますが、遺憾ながら今や世界情勢は必ずしも仏陀の精神に則つているとは申されない状態にあると考えられます。

このような情勢の下にあつて、釈尊の遺した偉大な教である仏教を奉ずる世界各国の代表が一堂に会し、東西の別なく政治情勢に左右されることなく、ひたすら仏陀の無我と慈悲の精神を通じて世界平和の顕現のため語り合うことは洵に意義深いものと考えます。

私は、この第六回世界仏教徒会議が全人類の心に幸福と平和を齎らすために大いなる貢献をすること信じ、日本国民を代表して衷心よりその成功を祈つて止まない次第であります。

昭和三十六年十一月十二日  
日本国内閣総理大臣 池田 勇人

**第六回世界仏教徒会議 全日本仏教会提出議案**  
カンボジア大会

- 一、原水爆禁止を一層つよく各国仏教徒に訴えよう
- 二、東西両陣営が話し合いによつて戦争回避に努めるよう第六回世界仏教徒会議の名において、国連、米ソ、英、仏等の各国首脳に訴えよう
- 三、我々は南北仏教徒の理解を一層深めるために適切なる機関を設けその推進に努めよう
- 四、ポライスカウトによる各国間の交流を盛んにしよう

# 諸委員会開催さる

## ○墓地問題等 国会対策委員会

去る十一月四日午後一時より築地サポイに於て墓地問題等国会対策委員会が開催され、委員会の運営等につき種々協議された。当日の出席者は左記の通りである。

阿部竜伝、長野隆法、渋谷亮泰、山本芳彦、北之内真竜、柳下隆侃、熊野竜夫、杉本良智、稲沢浄光、本多清敏、小松浄祐（以上委員）米馬道断、竹村教智、岩野真雄（以上常務理事）白山総長、栗本局長、別所、吉井、柳各部長、門屋主事（以上当局）

栗本局長より墓地問題の経過報告及び新委員紹介あり、米馬理事長の挨拶後、阿部委員長により委員会協議進行す。岸静寛氏が全員一致委員に推薦され、谷北俊龍氏が副委員長に選任された。常任委員は選任せず、全員が之に当る事とし、行政訴訟、法改正の為の国会対策等基本方針に対する質疑があり、栗本局長は解放農地問題対策等も本委員会が担当する旨を述べ、阿部委員長が要請により稲沢浄光氏が幹事長格に全員一致推薦された。次会は社会党の墓地問題に対する答申書につき更に検討される予定である。

## ○宗教法人対外委員会

去る十一月十六日午前十一時より築地サポイに於て、宗教法人対外委員会が開催され、運営方針に

つき協議、及び本会関係事項について報告、質疑等がなされた。当日の出席者は左記十二名（内委員七名）である。順不同。

渡辺俊英、今井祐申、訓覇信雄、竹村教智、小野塚潤澄、木村智広、能登有兆、井上恵行、阿部竜伝、佐山昭順、米馬道断、鈴木敏範、当局より白山総長、栗本、狩野局長、別所、吉井、柳部長、門屋主事出席す。

栗本局長より本委員会の性格（墓地問題、解放農地補償問題、下水道、税金其の他受益問題等を検討、対処する）につき説明あり、新委員及び職員紹介あり。米馬理事長の挨拶あり、栗本局長司会をとり、全員一致の議成により左の通り正、副委員長を指名す。

委員長 村上道隆氏  
副委員長 今井祐申氏  
同 小野塚潤澄氏

墓地問題につき阿部竜伝氏より国会対策等の経過、及び現況についての説明あり、栗本局長より仙台墓地訴訟問題につき、重要段階にある旨の経過報告等あり、今井副委員長より懇談に入る旨、宣せられた。鈴木委員より、仙台に対しては、たとえ敗訴の報に接するも、仙台仏教会の問題を契機に、

地方仏教会は幾多の恩恵を蒙つてゐる。極力応援すべきである旨の発言があり、又解放農地問題については、社寺有地についても、一般地主と同様の措置を受ける見透

しもあり、有利に展開しており、政府の調査会に対する全仏としての一層の努力が望ましい旨の現況説明があった。能登委員より神奈川県仏の墓地対策（別掲）につき説明報告があり、渡辺部長より多岐問題につき関西側の意向報告があった。

① 関西側としては、試写観覧の結果も、許容し難い結論である。

② 各宗共担信徒へ宗報等を通じて、正史、史実ではなくフイクシヨンなる旨の周知徹底を期されたい。期すべきであるとの見解である。

③ 映画一部の訂正、又はカットを要望する。

これに対し、米馬理事長からも大映永田社長との会談の経過について報告があり、三十五耗及び海外向ブリントの場合は、考慮する旨の永田社長の見解が伝えられた。

栗本局長より、全仏の態度は決して壊れたのではない。更に諸機関に諮り、態度を表明する旨報告があった。

今井副委員長より、参議院選挙に臨む、対創価学会との問題もあり、墓地対策委員との連絡を密にされたとき要望があり、栗本局長より、急を要する場合は、文書をもつて通報する旨の回答等があった。

## ○社会問題委員会

去る十一月十六日午後二時半より築地サポイに於て、社会問題委員会が開催され、久保田正文氏他委員十一名、岩野真雄氏他常務理事二名出席し、本委員会の運営、

性格につき、基本方針が質疑、検討された。当日の出席者は左記の通りである。

岩野真雄、久保田正文、安藤覚、関岡賢一、丸山行彦、阿部竜伝、山本洋一、久保楚太清、吉田敬直、徳沢竜潭、壬生照順、増永靈鳳、浜田本悠、当局より白山総長、栗本、狩野局長、吉井、柳部長、門屋、相馬主事出席す。

先ず栗本局長より本委員会の性格、新委員、職員の紹介があり、白山総長の挨拶があつて、栗本局長が司会をとり、全員賛成を得て、正、副委員長を左の通り指名、承認された。

委員長 松本徳明氏  
副委員長 久保田正文氏  
同 米山久氏

壬生、浜田、増永氏等より委員長は人事を一新せよとの強い要望があり、栗本局長より全仏の性格に伴う諸般の事情を考慮せる旨の説明あり、狩野局長より委員長は何より熱心であり、委員各位が一層の尽力を得たき旨の挨拶があつた。壬生委員の動議が成立し、全員一致、増永氏を副委員長に推薦する事を可決した。

副委員長 増永靈鳳氏  
浜田委員より委員会の性格（検討課題及対策等）は、時事問題委員会ともすべきものであるかとの質疑があり、栗本局長より仏教の立場に於て、時事、社会全般の問題について協議、対処する旨の回答があつた。

増永副委員長より全仏の性格、在り方に徴しても、政治家の偏重を排し、今こそ有識者を結集せねば仏教界にとつて由々しき事態を来す事となりとの意見があり、

栗本局長より、財政確立の面よりその立場に於て、全仏全般構成人容も見たのであるが、専門委員は、実動面に於て各視野より広く人材を起用し、依頼したものである。諒察を願ひ、依りての回答があつた。又増永、浜田委員より、世界仏教徒会議人選に対する根本的の方策につき要望があつた。

久保田副委員長が座長となり、会が進行され、本日の議題として多岐問題が検討された。当局より、関西側強硬なる旨報告あり、仏教徒としての前提に立ち深重に態度を決すべき段階にある。

① 史的反論を（増永）  
② 愚像破壊、涅槃の取扱ひ方に難点（浜田）  
③ 簡単に悪い点を指摘、公表。学者の対策会合（岩野）  
④ 世界観の上に立ち、仏教の取りあげ方の基本的教化、滲透、仏教観の徹底を期す（徳沢）

栗本局長より原水爆禁止問題については、宗連を通じて米ソ両国に嚴重に申入れてあり、又恒久的禁止方策についての対処対策は、次期を期する段階にある旨の報告等あり。

## ○組織教化委員会

全仏組織教化委員会は今年度委嘱による新委員によつて去る十一月十七日午後一時より、築地本願寺会議室で第一回会議を開いた。先ず正副委員長の互選により左の諸氏が決定した。

委員長 川田聖見（豊山派）  
副委員長 内山憲尚（幼児教化）  
同 丸井玄信（青少年問題）  
※（以下五頁へ続く）

○アルゼンティン大統領来日  
各宗管長と接見

わが日本とふかい友好関係にあるアルゼンティン共和国大統領領下クトル・アルトゥロ・フロンデイン閣下御一行は、はじめてわが國の國賓として十二月十三日午後二時五十分に来日されるが、あわただし日程のなかからせひ日本仏教界の代表者にあいたいとの懇望にあつて本会顧問の正力松太郎氏のあつせんで翌十四日午後一時から、目黒の迎賓館で大谷光照會長ほか各宗管長が接見し懇談することになつてゐる。

なほ記念品として、芸術院受賞者で仏彫刻家としては斯界一といわれ、先年ビルマへ仏像をおくつたときの作者でもある香取正彦氏の謹作になる金銅釈迦像一軀がおくられることになつた。

○在印チベット難民小学生へ  
愛のおくりもの

日本仏教代表団が携行 大ききに在印チベットの仏教学校へ喚鐘をおくり大変喜ばれたが、今回外務省を通じて教材がとほしい難民小学校に対して楽器や運動具をおくつてほしいとの依頼に接した全日本仏教会では、早速今回渡印した代表団に托し寄贈することになり、下記の寄贈品を外務省公用便としてさる十七日代表団出発の際携行した。

々おくりられることになつてゐるが、この仏教会からの好意は、恐らく、難民小学生に深い感銘を与えることであらうし、仏教を通じての結合は喜しい話として各方面から大きな関心が寄せられてゐる。(寄贈品目)

- ハーモニカ(三〇)
- 木琴(一二)
- 台) タンバリン(一〇)
- 中太鼓(二)
- フレイテ(二〇)
- 革製ドットボール(二〇)
- とびなわ(三)
- ピンポンラケット(一二)
- ピンポン支柱(六)
- ピンポンボール(二ダース)
- その他

○カンボジア

シヤヌーク殿下来日

カンボジア王国元首のノロドムシヤヌーク殿下は米國よりの帰途十月五日午後七時五十分羽田着のPA機にて来日し八日まで滞在した。当日中山理々國際委員長をはじめ全仏職員が羽田へ出迎えた。

なほ十一月十二日から第六回世界仏教徒会議がカンボジア王国ポノンベン市で開かれ、日本から廿四名の代表オプザバーが参加するので、滞日中に宿舍の帝國ホテルにシヤヌーク殿下を訪れた中山委員長、柳部長らは日本代表らに対して種々便宜供与方依頼するとともに種々懇談し、記念品を贈つた。

○海上戦歿者  
追悼奉詠舞大会

東日本詠歌連盟(理事長長岡慶信氏)では去る九月廿八日全日本仏教会の後援により第七回大会を東京文京区文京公会堂で開催し

た。今年は特に海上戦歿者等海難者の霊を慰めるために行われ、御詠歌各流より二千数百名の出場をえて敬虔な追悼法要が厳修され、引き続き各流派代表による奉詠舞大会が盛大に行なわれた。

○野田市仏教徒会議開催

野田市(千葉県)市長勝田光有(師)では十月十八日午後一時より恒例の野田市仏教徒会議を同市興風會館で開催した。

これは、同市文化祭の行事の一環として催されて来たもので、今年は全日仏より狩野組織局長、講師として元文部省専門員井上恵行師を派遣してこれに協力した。

○関東プロツク会長  
会議開催

昭和三十六年度の関東信越プロツク仏教会長会議は、本年は神奈川県仏の協力により、埼玉県仏主催で十月二十八・九の両日にわたり湯ヶ原で開催された。

今回の議題は、果仏の運営、宗教法人、新興宗教、社会問題等で、夫々熱心に討議し、意見が交換された。

○第三回静岡岡県仏婦大会

静岡岡県仏教婦人会では、去る十月一日、浜松市民會館ホールにおいて、第三回大会を開催、「仏教婦人会の組織の長期育成について」種々討論、意見が交換され、更に「仏教が青年に求めるもの」

と題してNHK中央研修所教授摩尼清之氏の講演があり、会は終始なごやかに盛大に行われた。

○仏教に關係ある  
国会議員懇談会

去る十月二十六日正午より赤坂プリンスホテルに於て、仏教政治同盟主催(発起人六十二名)に依り、仏教系国会議員との懇談会が開催者多数の出席を得て盛大に開催された。

昨年の衆議院議員選挙の際、全日本仏教会より推薦状が発せられた数は百二十余名に達し、国会に於ける仏教系衆参両議員諸氏の活躍は、我國内外の現状にかんがみ誠に意義大なるものがある。

仏教國日本に於て、仏教と政治が密接な關係にあることは、歴史的にも現実的にも重視されているにもかかわらず、兩者の間にはいまだ充分なる血がかよつておらず大きな損失として識者から惜しまれるところである。

今や内外の情勢は、政治的にも思想的にも重大な危機をはらんでゐる、此の時に當つて、仏教に因縁の深い衆参両院議員と仏教界有志とが一堂に會し、現代諸問題の存り方について懇談を交え、双方にとつて大きな意義があつた。

今後の健全なる発展を期待する。

関西事務局  
役員決定

全日本仏教会役員の変更に伴い

去る十月二十五日、関西事務局運営委員及び職員が左記の通り決定した。

- 運営常任委員 (七名 敬称略)
- 武田達誓(浄土真宗本願寺派総長)
  - 訓覇信雄(浄土真宗大谷派総長)
  - 西村澄道(浄土宗本派執事長)
  - 竹村教智(真言宗智山派総長)
  - 宮裡顯秀(臨濟宗妙心寺派総長)
  - 虎山道五(臨濟宗南禅寺派総長)
  - 福森宗碩(都府仏教會理事長)
- 運営委員 (八名)
- 津田実雄(高野山真言宗総長)
  - 吉田秀映(四天王寺執事)
  - 狭川明俊(奈良東大寺管長)
  - 松平智禪(滋賀県仏教会)
  - 間野敬重(大阪府仏教会)
  - 佐藤覚雄(兵庫縣仏教会)
  - 山中忍海(天台宗事務総長)
  - 阪口光応(和歌山県仏教会)

- 事務局職員 (十名)
- 事務総長 阿部慶昭(本願寺派)
  - 総務部長 渡辺静波(本願寺派)
  - 組織部長 渡辺俊英(大谷派)
  - 國際部長 佐藤孝全(浄土本派)
  - 教化部長 福森宗碩(京都府仏)
  - 審議部長 深貝文郁(南禅寺派)
  - 主 事 井原一道(大谷派)
  - 書記 梶原隆也(浄土本派)
  - 白鳥幸雄(本願寺派)
  - 柱松青齋(本願寺派)

★ ☆ ★

あとがき  
○正に忽たること鳥の目を過ぐるが如く、茲に昭和辛丑歳を送る。○顧みて、より組織の強化、仏教徒の結果こそ急務である。(T・K生)